

要 旨

学習指導要領は、思考力・判断力・表現力を育成するために、社会的事象の意味・意義を解釈する学習や、事象間の関連を説明したり、自分の考えを論述したりするなどの、言語活動を充実させることを重視した内容となっている。そこで、生徒が学習課題を解決するための思考の基となる知識や情報を共有し、思考の過程や結果を図式化する活動を行うようにした。そうすることで、学習課題に対する思考の過程や結果を可視化して整理し、地理的事象を互いに結び付け、根拠を基に筋道を立てて考え、解釈、説明、論述することができるようになってきた。

〈キーワード〉 ①論理的思考力 ②知識や情報の共有 ③図式化

1 研究の目標

論理的に考え表現できる生徒を育成するために、世界の諸地域の特色を追究する学習において、習得した知識や情報を基にした思考を、図式化しながらまとめ、表現する活動を取り入れた学習指導の在り方を探る。

2 目標設定の趣旨

少子高齢化、情報化、国際化など社会が大きく変化する中で、これからの社会を担う子どもたちは直面する様々な課題を主体的に捉え、自分の考えをもち課題を解決しようとする力を身に付けることが求められていると考える。

学習指導要領は、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得と、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力の育成を重視した内容となっている。また、思考力・判断力・表現力を確実に育成するために、中学校社会科の学習において、社会的事象の意味・意義を解釈する学習や、事象間の関連を説明したり、自分の考えを論述したりするなどの、言語活動を充実させることが求められている。

平成23年度に実施された佐賀県小・中学校学習状況調査の結果から、問題形式別正答率では、記述式の問題の正答率が「おおむね達成」の基準を下回り、正答率の経年変化を見ても、平成22年度より下回っていることが分かった。また、地理的分野において、資料を基に社会的事象に関する意味や意義を考える問題の中で、無解答率が20%を超えるものがあり課題が見られた。所属校の中学校1年生の現状を見ても、習得した知識や、資料から読み取った情報を基に関連付けて説明したり、自分の考えを論述したりすることに課題がある生徒が少なくない。これらのことから、中学校1年生の段階から社会的事象の意味や意義、特色や関連などについて、自分の考えをまとめ、表現させる場を設定することが重要であると考えられる。

そこで本研究では、研究テーマ、研究課題を受け、地理的分野の世界の諸地域の特色を追究し、捉えさせる学習において、論理的に考え表現できる生徒を育成する学習指導の在り方を探る。まず、学習課題の解決に向けて、思考の基となる基礎的・基本的な知識や、資料から読み取った情報を共有させる場を設定する。そこで共有した知識や情報を活用し、ワークシート等で思考の過程や結果を可視化しながら、論理的に考え表現させる場を設定することで、思考力・判断力・表現力を育成できると考え、本目標を設定した。

3 研究の仮説

世界の諸地域の特色を追究し、捉えさせる学習において、共有した知識や情報を基に思考の過程や

結果を図式化させ、意見交流を通して思考を深めさせる活動を取り入れれば、論理的に考え表現することができるようになるであろう。

4 研究方法

- (1) 思考力・判断力・表現力を育成する学習指導に関する理論研究
- (2) 思考力・判断力・表現力に関するアンケートやワークシートの記述を基にした生徒の実態把握
- (3) 検証授業を基にした手立ての有効性についての検証及び考察

5 研究内容

- (1) 文献や先行研究を基に、思考力・判断力・表現力を育成する学習指導について理論研究を行う。
- (2) アンケートやワークシートの記述から、生徒の思考力・判断力・表現力の変容を分析、考察する。
- (3) 所属校の1年生における地理的分野「アジア州～Made in Asiaが世界に広がったのはなぜか?～」(3時間)と「北アメリカ州～アメリカが世界の食料庫と呼ばれるようになったのはなぜか?～」(3時間)を用いた検証授業を行い、仮説を検証し、手立ての有効性を示す。

6 研究の実際

- (1) 文献による理論研究

学習指導要領は、思考力・判断力・表現力を確実に育むために、基礎的・基本的な知識、概念や技能の習得の必要性を述べている。そこで、思考力・判断力・表現力を育成するために、まず、確実な知識の習得と、情報活用の技能を身に付けさせる場を設定した上で、学習課題を追究させる必要があると考える。

小原は、「社会科が求める『思考力・判断力・表現力』とは、既に習得している基礎的な知識・概念・技能を活用して、社会的事象や問題に対する『どのように、どのような』『なぜ、どうして』『どうしたらいいか、どの解決策がより望ましいのか』という問いに答えていく力」¹⁾と述べている。これらの問いに答えるために「資料から必要な情報を集めて読み取る」「社会的事象の意味・意義を解釈する」「事象の特色や事象間の関連を説明する」「自分の考えを論述する」という4つの活動の構造化を提唱している。

思考力・判断力・表現力の中で、論理的思考力について井上らは、「筋道の通った思考」「直感やイメージによる思考に対して分析、総合、抽象、比較、関連付けなどの概念的思考一般のこと」²⁾と述べている。社会科学習の中で、知識や情報の比較や総合、関連付けなどを基に、筋道を立てて解釈、説明、論述させることで、論理的に考え表現できる力が育つであろうと考える。

また、大庭は、考えや物事を整理する時、図式は、「無から有を生むときの助けになり、思考を整理させ新たな発見を促す」³⁾と述べている。ふだん、頭の中で行われている思考を図式化することは、思考の可視化につながり、整理して自分の考えをまとめられるであろうと考える。

これらのことから、社会的事象の意味や意義、特色や関連などについて、自分の考えをまとめ、表現させる学習において、学習課題を解決するために必要な知識や情報をグループで共有させ、それらを活用して、思考の過程や結果を、図式化することで可視化して整理させることは、論理的に考え表現できる生徒を育成するために、有効な手立てと考える。

- (2) 研究の構想

ア 論理的に考え表現する力を育成する学習過程

地理的分野の世界の諸地域の単元において、地域的特色を追究し、捉えさせる学習活動を設定する(次頁図1)。まず、地域を大観させる学習を行い基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。次に、学習課題を把握させ、個人で学習課題の解決に向けて、資料の読み取りを行わせる。そし

て、これまでに習得した知識や、資料から読み取った情報の内容をグループで共有させることで、個人では習得できなかった知識を身に付け、他者の情報を入手することができる。また、知識や情報を共有し分類・整理させることで、生徒が様々な視点から学習課題を追究しながら考える基にもなると考える。次に、グループで共有した知識や情報を基に、地理的事象の根拠となる原因や背景、関連や総合、比較の結果等を、生徒が可視化して整理することができるように図式化させる。これにより、筋道を立てて解釈、説明、論述できる力が身に付くと考える。

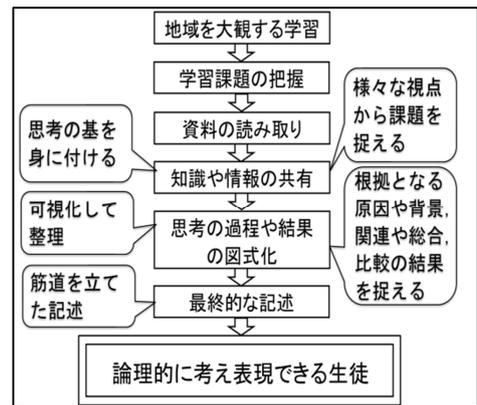


図1 論理的に考え表現する力を育成する学習過程

イ 検証の視点と具体的な手立て

(ア) 【検証の視点Ⅰ】知識や情報を共有し、思考の基を身に付ける

生徒の現状を見ると、基礎的・基本的な知識が十分に身に付いていない生徒や、資料を読み取り情報を収集することが十分にできない生徒がおり、その結果、解釈、説明、論述することを難しく感じている生徒は少なくない。このことから、生徒に学習課題を解決するための知識を身に付けさせ、個人では読み取れなかった情報を入手させることは、それらを活用して多面的・多角的に追究しながら考えさせる上で重要であると考え。そこで、資料の読み取りを行った上で、学習課題の解決の際に活用できる思考の基となる知識や情報を、グループで共有し分類・整理する場を設定する。この活動により、生徒は、思考の基を身に付けると共に、学習課題を追究する視点を確認することができる。本研究では、知識や情報を共有し分類・整理するために、付箋を利用させる。付箋に記述した知識や情報を結び付けて配置したり、移動や付け加えたりして整理することを容易にすることができる。学習課題の解決に向けて、これまでに習得した知識や、資料から読み取った情報の内容を付箋に記述させ、模造紙大のまとめ用紙に貼り付けさせる。ここで利用するまとめ用紙とは、グループで知識や情報の共有や分類・整理を行わせるものである(図2)。このような場を設定することで、知識や情報を共有し、思考の基を身に付けることができるであろうと考える。

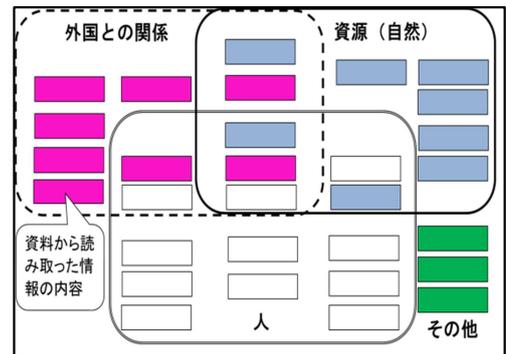


図2 グループのまとめ用紙の例

この活動により、生徒は、思考の基を身に付けると共に、学習課題を追究する視点を確認することができる。本研究では、知識や情報を共有し分類・整理するために、付箋を利用させる。付箋に記述した知識や情報を結び付けて配置したり、移動や付け加えたりして整理することを容易にすることができる。学習課題の解決に向けて、これまでに習得した知識や、資料から読み取った情報の内容を付箋に記述させ、模造紙大のまとめ用紙に貼り付けさせる。ここで利用するまとめ用紙とは、グループで知識や情報の共有や分類・整理を行わせるものである(図2)。このような場を設定することで、知識や情報を共有し、思考の基を身に付けることができるであろうと考える。

(イ) 【検証の視点Ⅱ】思考の過程や結果の図式化による、論理的に考え表現する力の高まり

生徒の現状を見ると、自分の考えを頭の中で整理できない、自分の考えを文章にどのようにまとめていか分からないという理由から、解釈、説明、論述することを難しく感じている生徒が少なくない。共有した知識や情報を基に、筋道を立てて解釈、説明、論述させる手立てが必要である。そこで、共有した知識や情報を基に、学習課題に対する思考の過程や結果を、ワークシート等で図式化させる場を設定する。思考の過程や結果を可視化して整理させることで、筋道を立てて考えることができるようになる。まず、学習課題の解決に必要な知識や情報を付箋に記述させ、関連性が分かるように、ワークシート等に配置させる。そして、原因と結果や背景を一方向の矢印でつないだり、関連がある知識や情報を線で結んだり、比較を両方向の矢印で結んだり、複数の知識や情報を円などの図形で囲んだりさせながら、自分の考えを整理させる(図3)。さらに、グループでの話し合いの結果や、意見交

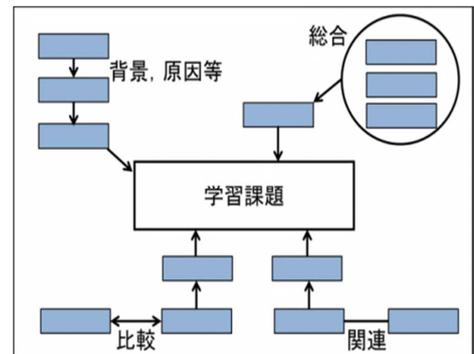


図3 思考の過程や結果の図式化

さらに、グループでの話し合いの結果や、意見交

流で参考にした知識や情報も図に加えた上で、自分の考えを再検討させる。最終的に作成した図を見ながら、自分の考えをまとめさせ記述させる。記述させる際には、文章構成例を活用させることで、知識や情報を互いに結び付け、筋道を立てた記述ができるようになると思う。

(3) 授業の実際と考察

ア 検証授業① 単元名 世界の諸地域「アジア州」(平成24年11月実施)

(ア) 単元の概略

検証授業を行ったアジア州の学習は、学習指導要領の内容(1)のウの世界の諸地域の学習に当たり、世界の各州を対象として、それぞれの州内に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させることをねらいとしている。そこで、「急速な成長と変化」という主題を設定し、生徒が日頃の生活の中で使用している様々な製品が、アジア州の国々で生産されている事実を基に、「Made in Asia が世界に広がったのはなぜか?」という問いを立て、アジア州における人口急増地域の分布、産業発展と人々の生活の関わり、外国企業の進出の理由などを追究する中で、アジア州の地域的特色の理解につなげさせたいと考えた。

(イ) 【検証の視点Ⅰ】知識や情報を共有し、思考の基を身に付ける

抽出生徒のワークシートの記述を基に考察を行う。

学習課題の把握を行った後、学習課題の解決に向けて個人で資料の読み取りを行わせた。これまでに習得した知識や、資料から読み取った情報を記述した付箋をグループのまとめ用紙に貼り付けさせ、グループで知識や情報の共有と、学習課題の解決に向けた視点となる「人」「資源(自然)」「外国との関係」の視点ごとに分類・整理を行わせた。

生徒Bは、学習課題の解決に向けて資料の読み取りはできるが、自分の考えの根拠となる原因や背景、関連や総合、比較の結果等を基にした記述や、様々な視点からの考えを結び付けた記述が不十分なことが多い生徒である。第4時に、学習課題を把握した上で、アジア州の地域的特色を記述した内容は、アジア州が急速に成長や変化した結果のみの簡単な記述であった。生徒Bが、学習課題の解決に向けて資料を読み取り、付箋に記述した情報の内容は7つであった。第6時に自分の思考の過程や結果を図式化しながらまとめる際には、グループで共有した知識や情報の内容を加えて図を作成した。使用した付箋の数は、個人での資料の読み取りの結果より8つ増えた15であった。その結果、最終的な記述で、「人口」「人々の様子」「賃金」「資源」の4つの視点からの具体的な記述につながったと考えられる(資料1)。

<p>【第4時】アジアは、普段使うものを世界の中で多く生産している。第1に中国の急速な変化。第2に東南アジアの輸出品。このようにアジア州は急速な変化がおこった。</p>	<p>【第6時】第1に世界の中でアジアは<u>人口</u>が多いからです。世界の約6割です。そのため働いている人が多いので、農業ではなく<u>沿岸部にある工場</u>で働いている人が多く、<u>なぜ農業を選ばないか</u>というと、工場で働いた方が<u>給料</u>が高いからだと分かりました。給料が高いといっても日本ほどではありませんでした。第2にアジアは<u>資源</u>が豊富なことです。石炭・鉄鉱石・石油・鉛鉱といった資源が、世界の中で多く取れているのです。そのためアジアでは多くの物を生産できているのです。この2つのことから、アジア州は、数年ほどで大きな変化や成長を遂げているのです。だから、普段、私たちの生活の中で、アジアで作られた製品を多く目にしていることがわかりました。 ※下線(=)は視点、 は原因や背景、関連や総合、比較の結果となる部分を示す。</p>
--	---

資料1 生徒Bの記述の変容

生徒Cは社会科の学習を苦手と感じており、資料の読み取りや、学習課題に対する記述が十分にできないことが多い生徒である。第4時に、学習課題を把握した上で、アジア州の地域的特色を記述した内容は、十分な記述ではなかった。資料を読み取り、付箋に記述した情報の内容は「面積はアジアが広い」「人口はアジアが多い」「製造業は中国が1番多い」の3つであっ

た。第6時に、自分の思考の過程や結果を、図式化してまとめる際には、グループで共有した「工場」「賃金」「資源」の3つの視点からの情報の内容を加えて図を作成した。作成した図を見ながら、最終的に5つの視点を基に記述した(資料2)。

<p>【第4時】アジア州は急速に成長と変化をした地域。</p>	<p>【第6時】 Made in Asia が世界に広がったのは、第一に<u>人口</u>はアジアが世界で一番だからです。そして<u>面積</u>が一番広いので、<u>工場</u>が多く建てられ、大量に生産されていると思います。第二に、<u>日本より外国の賃金</u>が安いので、外国で生産した方がよいことがあげられます。第三に、<u>中国に資源</u>が多くあることがあげられます。そのことにより、世界に広がったと思われる。</p> <p>※下線(=)は視点、■ は原因や背景、関連や総合、比較の結果となる部分を示す。</p>
---------------------------------	--

資料2 生徒Cの記述の変容

これらのことから、知識や情報を共有させ、分類・整理させたことで、思考の基を身に付け、最終的には、複数の視点からの記述へとつながったと考える。資料の読み取りや、複数の視点から追究して考えることを難しく感じている生徒に、有効に働いたと考えられる。

(ウ) 【検証の視点Ⅱ】思考の過程や結果の図式化による、論理的に考え表現する力の高まり

抽出生徒のワークシートの記述を基に考察を行う。

共有した知識や情報から有用なものを選び、個人のワークシートで根拠となる原因や背景、関連や総合、比較の結果等を図式化させた。思考の過程や結果を図式化させた上で、提示した文章構成例①(図4)を基に、学習課題に対する最終的な記述をさせた。

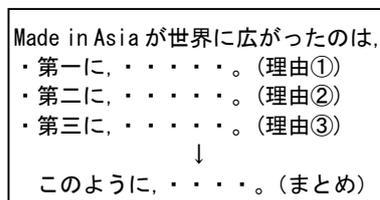


図4 文章構成例①

生徒Bは共有した知識や情報を基に、ワークシート上で、日本との賃金の比較の結果や、中国の人々が沿岸部に移動している背景等を、矢印や線で結び図にかき表した(図5)。作成した図を見ながら第6時に記述した内容は以前より根拠となる原因や背景、関連や総合、比較の結果等を基にした具体的な記述となった(前頁資料1)。それまで整理できなかった思考を図式化させたことで、思考の過程や結果を可視化して整理し、第4時の記述と比べ根拠を基にした記述につながったと考えられる。

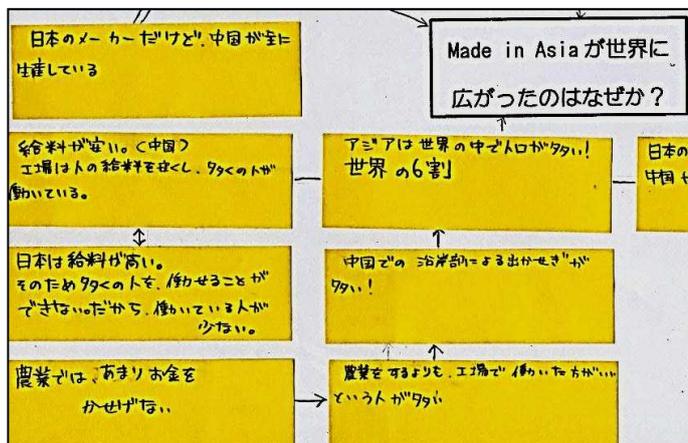


図5 生徒Bの図式の一部

生徒Cは共有した知識や情報の中から有用なものを選択することはできていたが、日本と中国の賃金比較を行った結果「(日本ではなく)外国で生産した方がよい」という考えを導き出した以外は、原因や背景、関連や総合、比較の結果等を個人の力で図式化することは十分にできていなかった。

イ 検証授業② 単元名 世界の諸地域「北アメリカ州」(平成25年1月、2月実施)

(ア) 単元の概略

検証授業を行った北アメリカ州の学習は、学習指導要領の内容(1)のウの世界の諸地域の学習に当たり、世界の各州を対象として、それぞれの州内に暮らす人々の生活の様子を的確に把握できる地理的事象を取り上げ、それを基に主題を設けて、それぞれの州の地域的特色を理解させることをねらいとしている。そこで、「さかんな農業の特色」という主題を設定し、日本が多くの食料をアメリカに依存している事実を基に「アメリカが世界の食料庫と呼ばれるようになったのはなぜか?」という問いを立て、世界貿易に占める割合、農産物の生産分布、農産物の生産と流通システムなどを追究する中で、北アメリカ州の地域的特色の理解につなげさせたいと考えた。

(イ) 【検証の視点Ⅰ】知識や情報を共有し、思考の基を身に付ける

抽出生徒のワークシートの記述を基に考察を行う。

まず、アメリカの農産物の生産量や輸出量などの資料を読み取らせた上で、学習課題を把握させた。学習課題に対する予想を基に、例えば「アメリカ農業と気候との関わりについて」などの調査内容をグループで決定させた。そして、学習課題の解決に向けて資料の読み取りを行わせ、グループのまとめ用紙(図6)に付箋を貼り付けさせることで知識や情報の共有と分類・整理を行わせた。

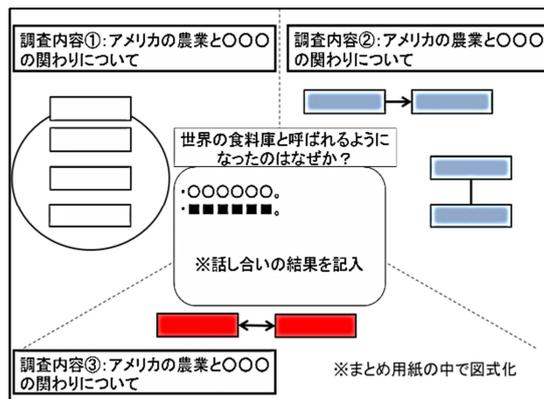


図6 グループのまとめ用紙

生徒Bはグループの中で「アメリカ農業とバイオテクノロジーの関わり」について資料の読み取りを行い、グループのまとめ用紙に、情報の内容を書いた付箋を貼り付けた。まとめ用紙上で知識や情報の共有と分類・整理を行わせた結果、最終的な記述では、「適地適作」「企業的な経営」という内容を加えて3つの視点から記述した。

また、生徒Cはグループの中で「大型機械」について資料の読み取りを行い、グループのメンバーから資料の読み取り方などを教えてもらう中で「大型機械を使っている」「収穫専門の業者がいる」「アメリカのコンバインの幅は日本のコンバインの約9倍である」という情報を付箋に記述して、グループのまとめ用紙に貼り付けた(図7)。資料の読み取りでは

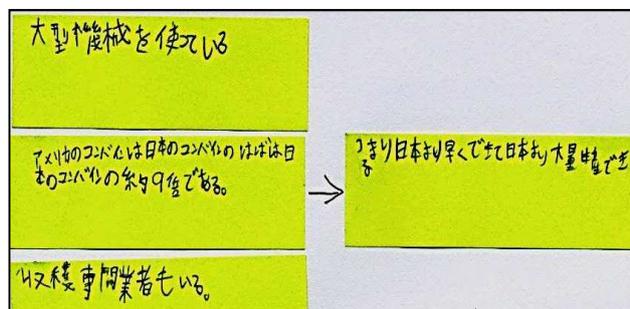


図7 生徒Cが貼り付けた付箋

「大型機械」についての情報の内容の記述だけであったが、知識や情報の共有と分類・整理の結果、最終的な記述では「広い耕地」「少ない人数」という内容を加えて記述した。

今回の授業では、グループのまとめ用紙上で思考の過程や結果を図式化したことで、他のメンバーがかき表した原因や背景、関連や総合、比較の結果等についても共有することができ、自分の考えをまとめる際に有効に働いたと考える。

(ウ) 【検証の視点Ⅱ】思考の過程や結果の図式化による、論理的に考え表現する力の高まり

抽出生徒のワークシートの記述を基に考察を行う。

検証授業①(11月実施)では個人のワークシートで図式化を行わせたが、個人の力で図式化することに難しさを感じていた生徒が見られた。そこで、今回の授業では、地理的事象の原因や背景、関連や総合、比較の結果等を、グループ内で学び合うことができるように、まとめ用紙上で図式化を行わせた。そして、作成した図を見ながら、世界の食料庫と呼ばれるようになった理由をグループで話し合わせ、まとめ用紙に記述させた。その後、学級内で意見交流を行わせ、他のグループが作成した図を見たり、説明を聞いたりさせた。参考にした知識や情報については、付箋に記述させ、自分達のまとめ用紙に追加させた上で、自分の考えを再検討させた。また、最終的に自分の考えを記述させる際に、地理的事象を互いに結び付けることができるような文章構成例②を提示し、グループで作成した図を見ながら記述をさせた(図8)。

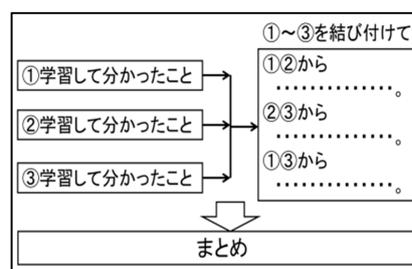


図8 文章構成例②

生徒Bは最終的な記述の際には、グループで作成した図を見ながら、世界の食料庫と呼ばれるようになった理由について考えていった。根拠となる原因や背景、関連や総合、比較の結果等を基に様々な考えが出た中で「バイオテクノロジー」「適地適作」「企業的な経営」の3点を、学習して分

かったこととして選択し、文章構成例②を基にしてワークシートに記述した。そして、「バイオテクノロジー」と「適地適作」を結び付けて考え「生産量を増やすため、様々な工夫をこらして農産物を作っている」と記述した。また、「バイオテクノロジー」と「企業的な経営」を結び付けて考え「農業専門の会社で、技術をもった人が集まり、大量生産するために働いている」と記述した。まとめの記述内容は、複数の視点から考えた理由を互いに結び付け、筋道を立てて表現しようとしていることがうかがえる(図9)。

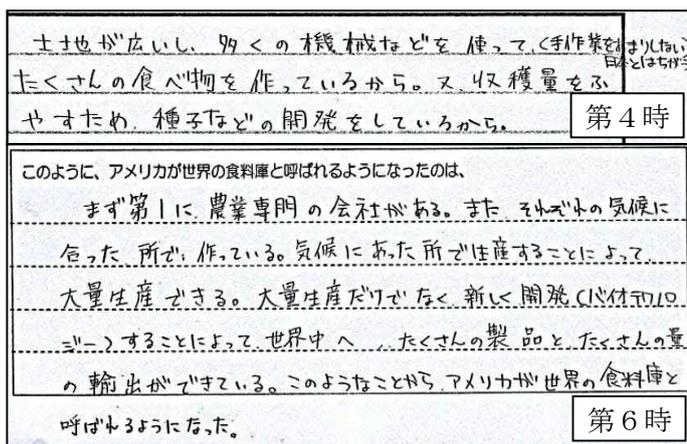


図9 生徒Bの記述の変容

生徒Cは、知識や情報を基にして図式化する際には、資料から読み取った3つの情報をまとめて配置し「つまり日本より早くできて大量生産できる」という自分の考えを記述した付箋に矢印をつないだ(前頁図7)。個人で図式化を行った検証授業①(11月実施)では、原因や背景、関連や総合、比較の結果等を図式化しながら考えることは十分にできていなかったが、グループのまとめ用紙を利用して互いに学び合ったことで、図式化しながら考える方法を身に付けていったものと考えられる。最終的な記述ではグループで作成した図を活用し、様々な考えが出た中で「大型機械の利用」「耕地面積が広い」「少ない人数で大量生産」の3点を、学習して分かったこととして選択し、ワークシートに記述した。

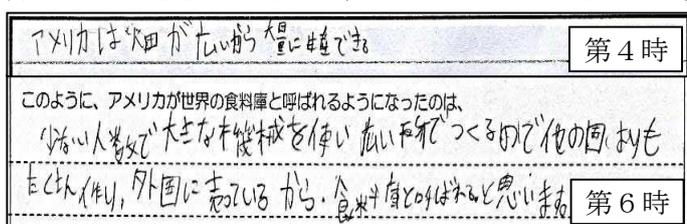


図10 生徒Cの記述の変容

そして、「大型機械の利用」と「耕地面積が広い」を結び付けて考え「耕地面積が広くて、日本よりも大きな機械を使っているから、一度にたくさんの量を作ることができる」と記述した。また、「大型機械の利用」と「少ない人数で大量生産」を結び付けて考え「大きな機械なので、少ない人数でもたくさん作れる」と記述した。まとめの記述内容は、短い文章ではあるが、アメリカ農業の特色の一つである、大規模農業について記述することができた(図10)。

これらのことから、生徒は思考の過程や結果を、図式化することで可視化して整理するようになり、複数の視点から考えた理由を結び付け、筋道を立てた記述ができるようになったと考えられる。

ウ 学級全体の考察

学級全体の変容を、ワークシートの記述やアンケートを基に考察する。

検証授業②(1月、2月実施)の記述内容を見ると、第4時の記述では、複数の視点から追究して考え記述した生徒は66%(23名)であった。その後、第6時の最終的な記述では89%(31名)に増加した(図11)。記述した視点の数が増えなかった生徒もいたが、記述内容は、第4時に比べると詳しい記述となった生徒が多かった。知識や情報の共有と分類・整理を行った結果、生徒は課題解決に必要な知識を身に付け、情報を入力し、最終的な記述の際に活用したのと考えられる。また、学習課題に対する複数の視点(例えば「大規模農業」や「企業的な経営」など)からの考えを、互いに結び

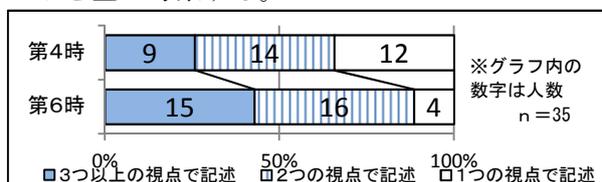


図11 記述した視点の数



図12 考えを結び付けた記述

付けて記述した生徒は、第4時は49% (17名)であったが、第6時の最終的な記述では77% (27名)に増加した (前頁図12)。思考の過程や結果を、図式化することで可視化して整理し、地理的事象間の結び付きを考え、筋道を立てて記述することができたものと考えられる。

また、検証授業前後(11月, 2月)に実施した生徒へのアンケートの集計結果では「学習課題の解決に向け、様々な視点から考えることができる」という質問に、「当てはまる」「少し当てはまる」と答えた生徒が46% (16名)から83% (29名)に増加した。また、「自分の考えを、筋道を立ててまとめ文章表現することができる」という質問に、「当てはまる」「少し当てはまる」と答えた生徒が40% (14名)から74% (26名)に増加するなど意識の高まりがみられた (図13)。

授業後の感想では「最初知らなかったことや疑問に思ったことが、グループで活動をしていくにつれてよく分かった」「図にしたら頭で考えるより簡単にできると思った」といった感想も見られた。

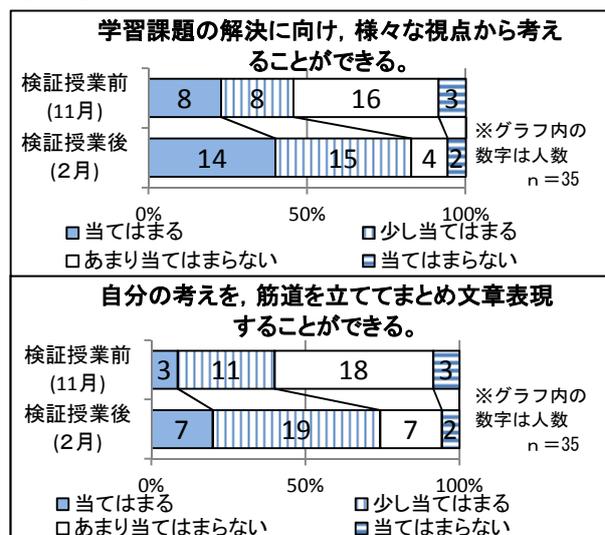


図13 生徒の意識の変容

7 研究のまとめと今後の課題

(1) 研究のまとめ

知識や情報をグループで共有させる活動を取り入れることで、生徒は、個人では習得できなかった知識を身に付け、それまでに読み取れなかった情報を入手することができるようになってきた。

また、思考の過程や結果を、図式化させることで可視化して整理し、筋道を立てて自分の考えをまとめ、解釈、説明、論述することができるようになってきた。

これらのことから、知識や情報を共有させ、それを基に思考の過程や結果を、図式化させることで可視化して整理させることは、思考力・判断力・表現力の育成に有効に働くと考える。

(2) 今後の課題

- ・ 知識や情報の量が増えたことで、生徒が有用な知識や情報を選択する際に、戸惑う場面が見られた。共有した様々な知識や情報の中から、課題解決に有用な知識や情報を選択させる手立てを工夫する必要がある。
- ・ 生徒が図式化しながら考え、表現する場の設定や、思考の過程や結果の図式化の方法を工夫する必要がある。

《引用文献》

- 1) 小原 友行編著 『「思考力・判断力・表現力」をつける社会科授業デザイン中学校編』 2009年3月 明治図書 p. 9
- 2) 井上 尚美・尾木 和英・安芸高田市立向原小学校編 『思考力を育てる「論理科」の試み』 2008年10月 明治図書 pp. 11-12
- 3) 大庭 コテイ さち子 『考える・まとめる・表現する』 2011年2月4日 NTT出版 p. 16

《参考文献》

- ・ 文部科学省 『中学校学習指導要領解説 社会科編』 平成20年9月
- ・ 松野 孝雄 『論理的な記述力を伸ばす授業づくり』 2010年4月 明治図書